

2017年9月の第3次産業活動指数結果の見方について

2017年11月10日
大臣官房調査統計G
経済解析室

第3次産業活動指数の内訳大分類業種系列である情報通信業の季節調整済指数の公表値については、2015年9月以降の3、9月の値に目立って落ち込むという特異な動きが見られているところです。この動きは、現行方式による季節調整によって、引き起こされている可能性があると考えられます。

そこで、現行、季節調整ツールとして使用しているX-12-ARIMAのほかに、X-13 ARIMA-SEATS※でも試算してみたところ、上記の特異な動きは概ね解消されることが確認されてました。当該検証結果に基づく、2017年9月の公表値については、当該試算値と比べて-1.6%程度低い水準にあることから、情報通信業の業況については、この9月の公表値の落ち込みを割り引いてみる必要もあると考えています。

また、2017年9月の第3次産業活動総合については、上記で明らかになった9月公表値と試算値の差分を、前月比寄与度換算すると-0.18%pという結果となります。9月の第3次産業活動総合の前月比-0.2%のかなりの部分が、この現行季節調整方式による「特異な動き」によるものである可能性を否定できません。もともと低下幅自体も小さいところではありますが、この点を考慮して、9月分の基調判断も行っています。

なお、情報通信業の季節調整に係る詳細の検証は、以下のコンテンツにて行っていますので、ご関心のある方はご参照ください。

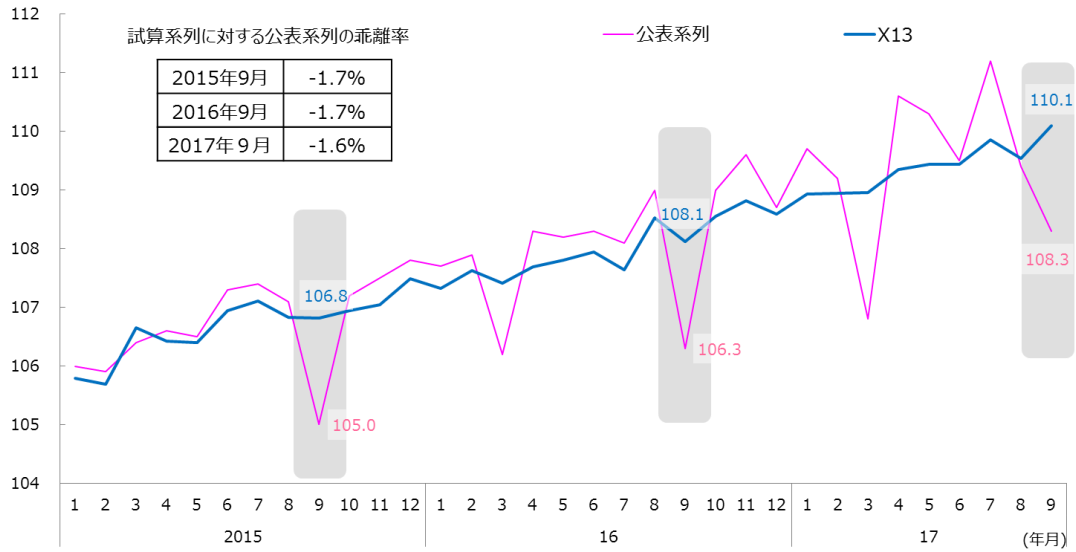
ミニ経済分析『9月の情報通信業の落ち込みにはご用心；第3次産業活動指数の情報通信業における季節調整に係る検証』

<http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai/kako/20171106minikeizai.html>

※ 米国商務省センサス局にて開発・提供されている季節調整ツール。X-12-ARIMAも同局にて開発・提供。なお、X-12-ARIMAとX-13 ARIMA-SEATSの機能の大きな違いとしては、後者において、新たに、スペイン銀行で開発・提供されている季節調整ツール TRAMO-SEATSのSEATSによる時系列データの成分分解が利用できるようになった点である。今回の試算においても、SEATSを利用している。

(参考 1) 情報通信業の季節調整済指数(公表値と試算値の比較)

(2010年=100)



(参考 2) 第3次産業総合前月比に対する業種別影響度(試算値反映後)

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

